

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「よんで かんじた ことを はなそう」 教材名「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

2 単元の目標

語のまとまりや響きに注意し、場面に合ったまとまりで音読できる。選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや響きに注意し、場面に合ったまとまりで音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えている。（C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

語り手が大事な相手に思いを伝える行動に着目し、印象に残った場面を理由を添えて話す。題名への印象と、最後まで読んだ後の感じ方を比べる。学習指導要領のC(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)クを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

選んだ場面を教科書で示し、誰が何をしたかを一緒に確認する。言葉にしにくい児童は絵で選んだ場面を表し、教師が理由を聞いて文にする。死別経験の発言を求めず、無理な発表もさせない。おおむね満足できる状況は、選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名から思ったことを話し、全文の読み聞かせを聞く。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○登場する人物や動物、起こった出来事を順に確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	4	○印象に残った場面を選び、そこでしていることと感じたことを話す準備をする。	学習状況を見て支援する。
	5 （本 時）	○選んだ場面を示しながら感じた理由を伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	6	○友達の感想を聞いて場面を読み直し、好きな場面のカードを書く。	学習状況を見て支援する。
	7	○カードを交流し、同じ場面でも感想が違うことに気付く。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○題名を読み直し、初めに思ったこととの違いを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの場面がいちばん印象に残りましたか。そこでしていることから、どんなことを感じましたか」 【めあて】語り手が大事な相手に思いを伝える行動に着目し、印象に残った場面を理由を添えて話す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じことを伝え続けるところが印象に残った。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの場面がいちばん印象に残りましたか。そこでしていることから、どんなことを感じましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じことを伝え続けるところが印象に残った。 ・ 初めに読んだときと終わりまで読んだときで題名の感じが変わった。 ・ 友達は別の行動を大事だと思っていた。	選んだ場面を教科書で示し、誰が何をしたかを一緒に確認する。言葉にしにくい児童は絵で選んだ場面を表し、教師が理由を聞いて文にする。死別経験の発言を求めず、無理な発表もさせない。 想定する難しさ：悲しいという気持ちだけになり場面が示せない。自分のペットの話だけに広がる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 友達は別の行動を大事だと思っていた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの場面がいちばん印象に残りましたか。そこでしていることから、どんなことを感じましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

